



高等学校 農業

重点1 各科目の指導の充実

- 本時のねらいや到達目標が明確になっており、主体的に学習活動に取り組めるよう工夫している。
- 資格取得の指導を通して、学習意欲の向上を図っている。
- 計画的に ICT を効果的に活用した授業改善を図っている。
- 主体的・対話的で深い学びに繋がる工夫をするとともに、学びの質の検証と改善を定期的に行っている。
- GAP や HACCP 等に関する学習内容を充実させ、安全・安心な食料の持続的な生産と供給に対応した農業教育を実践している。
- 観点別学習状況評価の方向性を事前に生徒と共有している。

【ポイント】

安定的な食料生産の必要性やグローバル化への対応など、取り巻く社会的環境の変化を踏まえ、農業や農業関連産業を通して地域や社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成できるよう学習内容等の改善・充実を図るため、適切なタイミングで「指導と評価」を行い、その結果に基づいた指導を実施することが重要です。

重点2 農業教育の諸課題への対応

- 各校の伝統・地域のもつ多面的な特質をいかした学校づくりに取り組んでいる。
- 各科目の指導を通じて、地域社会を意識できる指導上の工夫をしている。
- 地域の特色や課題を取り入れた課題解決型学習を継続的に実施している。
- 小・中学校と連携した学習活動により農業教育の魅力を直接伝えている。
- 教育活動を客観的に評価し、組織的に改善に取り組む体制がある。

【ポイント】

教育の魅力化が進む中、効果的な取組への改善を行い、農業教育をとりまく諸課題に対応することが求められます。

重点3 各関係機関との協力体制の充実

- アグリマイスター顕彰制度を校内で周知されている。
- 学校の実態に応じた農業クラブ活動が行われている。
- 県の農林水産部局・市町村・JA 等の関係団体等と連携して、実践的な学習活動に積極的に取り組んでいる。

【ポイント】

農業教育の充実には、関係機関等との連携が重要です。

高等学校 工業

重点1 各科目の授業で資質・能力を確実に育成するための授業改善を行う

- 本時のねらいや到達目標を明確にしている。
- 単元の学びと社会とのつながりを意識した展開の工夫を取り入れている。
- 観点別学習状況評価を、生徒の学習改善及び教師の指導改善につなげている。（生徒との共有）
- 生徒の興味・関心や理解を深めるために、ICT を効果的に活用している。
- 生徒同士の対話など、「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫を単元の要所で取り入れている。
- 技術者として求められる倫理観の醸成と結びつけて指導を行っている。
- 資格の取得を科目の目的とはしていない。（資格は成果のひとつである）

【ポイント】

グランドデザインを踏まえた学習内容となっているかを意識すること、また、ものづくりを通して、地域や社会の健全で持続可能な発展を担う職業人を育成するため、各科目において適切なタイミングで妥当性のある評価を実施し、その結果を基に指導方法を改善することが重要です。

重点2 課題研究において探究的な学びを実現させる

- 生徒がこれまでに学んだ専門的な知識・技術を活用しながら解決できる課題設定の工夫を取り入れている。
- 課題を自分のものとするため、生徒が十分に調査を行ったり、自己の在り方や生き方と関連づけて考えたりしている。
- 地域や産業界と連携しながら課題解決に取り組んでいる。
- 課題の解決を図る実践的・体験的な学習活動を充実させている。
- 実験・実測で得られた結果について科学的に分析したり、法的な側面から判断したりしている。
- 「計画→実行→評価→改善」による PDCA サイクルを通じて課題を解決している。
- 生徒が研究成果を発表する場を設定するとともに、振り返りの指導を行っている。

【ポイント】

習得・活用・探究という学びの過程を通じ、生徒の専門的な知識・技術の深化・統合化を図ることができるよう、指導方法の工夫・改善を行っていくことが重要です。

高等学校 商業

重点1 資質・能力を育成するために授業改善を行う

- 本時のねらいや到達目標を明確にしている。
- 観点別学習状況評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設けている。
- 主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善が図られるよう、言語活動の充実や ICT の活用が積極的に取り入れられている。
- 授業と家庭学習を連動させている。
- ビジネスに関する具体的な課題を設定し、地域や産業界と連携して、様々な情報を収集・分析・評価し、発表などの学習活動を取り入れている。
- マーケティング分野において、流通を見据えた商品開発に関する課題を設定し、マーケティングに関する知識と技術を活用して市場調査を行い、その結果に基づいた商品企画書を作成し、地域や産業界にプレゼンテーションを行うなどの学習活動を取り入れている。
- マネジメント分野において、経済の動向について、具体的な事例を取り上げ、経済や法規などの知識を活用して、考察や討論を伴う学習活動を取り入れている。
- 会計分野において、財務指標の具体的な例を用いて、会計に関する知識と技術を活用して企業の実態の分析を行い、その結果を表現するなどの学習活動を取り入れている。
- ビジネス情報分野において、ビジネスに関する情報を処理する課題を設定し、情報の処理や活用に関する知識と技術を用いて情報の収集・処理・分析を行ったり、ICT を効果的に活用した提案書等を作成してプレゼンテーションを行ったりしている。
- ①知識や技術などを身に付ける→②実際のビジネスを理解する→③企画力や創造力を養う→④実社会で実践する力を磨く、といった商業の学びの流れを意識している。

【ポイント】

商業科の学習内容が学校のグランドデザインを踏まえたものになっているか、適切な「指導と評価の計画」が作成されているか、新科目の指導領域や配当時間が学習指導要領に基づくものになっているかの確認が大切です。

重点2 課題研究の意義

- 観点別学習状況評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設けている。
- 「課題研究」を「総合的な探究の時間」に代替する場合は、探究のプロセスを取り入れている。課題の設定については、“商業に関する”課題を設定している。

【ポイント】

習得と活用を繰り返す探究的な学びにより専門的な知識・技術の深化・統合化を図ることが大切です。

高等学校 水産

重点1 授業改善と検証

- 授業改善と検証を随時行っている。
- 本時のねらいと目標を明確にしている。
- 観点別学習状況評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設けている。
- ICT を効果的に活用した授業を意図的・計画的に行っている。

【ポイント】

水産業や海洋関連産業を取り巻く状況の変化を踏まえ、タブレット端末等を利用した家庭学習を行うことにより生徒の関心や理解を深めるとともに、進路並びに地域との協働に向けた目的意識を高める指導方法の確立が重要です。

重点2 水産教育の諸課題への対応

- 地域や小・中学生に向けて水産教育の魅力を定期的に発信している。
- 地域や関連企業と連携し、学習活動の深化や改善を行っている。
- 課題研究に対する取組を計画的・継続的にしている。
- PDCA サイクルを通じた安全教育の徹底と見直しを行っている。
- 大学等への進学を希望する生徒への対応を、3年間計画・全校体制で設定している。
- グランドデザインを踏まえた学習計画の設定や取組がなされている。

【ポイント】

「指導と評価の一体化」を行うために、適切な「指導と評価の計画」を作成し、観点ごとに総括を行うことが大切です。

重点3 実習船教育の充実

- 指導教官として船上で行うべきことについて理解し、主体的・能動的な実習生を育てるように実習船教育を行っている。
- 長期乗船実習に関する事前指導を実習生に行い、保護者に対し説明会を実施している。
- 乗船前、乗船中徹底した感染症予防教育及び対策を行い、安全な乗船実習に取り組んでいる。
- 洋上投票等による主権者教育を事前に行っている。
- 安全管理の徹底と見直しを行い、報告を行っている。（PDCA サイクルの活用）
- 船舶職員並びに関連産業従事者確保に向けての取組を行っている。
- HP 等を通じて実習船における学習活動を外部や保護者に発信している。

【ポイント】

乗船指導は、両校、練習船との連携を密に図り、周到な指導計画に基づいて行う必要があります。



高等学校 芸術（書道）

重点1 資質・能力を確実に育成するための授業改善を行う

- 本時のねらいや到達目標を明確にしている。
- 観点別学習状況評価の方針を事前に生徒と共有する場面を設けている。
- 生徒の興味・関心や理解を深めるために、ICTを効果的に活用している。
- 教師が説明・範書→生徒はひたすら臨書→作品提出という技能向上のみに偏らないような授業を展開している。
- 生徒同士の対話など、「主体的・対話的で深い学び」につながる工夫を単元の要所で取り入れている。
- 古典鑑賞や生徒作品の相互鑑賞など、鑑賞の授業を工夫して取り入れている。

【ポイント】

学習指導要領では、「A表現」の3分野（「漢字の書」「仮名の書」「漢字仮名交じりの書」）と「B鑑賞」を全て学ぶこととされています。授業の中で表現と鑑賞の相互関連を図ることが大切です。また、グループでの言語活動や創作作品制作でのワークシートなど、作品を制作する過程を評価するための工夫が必要です。

重点2 生活や社会との関わり、文字文化

- 文字や書の効用を生活や社会に生かすことや、多様な文字文化に対する理解を深められる授業を工夫している。
- 「用具・用材」の指導では、表現効果や伝統、文化的価値について生徒が理解できるよう工夫している。
- 文字文化の視点から、「篆刻・刻字等」を扱うよう配慮している。

【ポイント】

生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力の育成を目指し、「用具・用材」については、使用方法のみを指導するのではなく、その特徴と表現効果との関わりや文房四宝の伝統や価値について生徒が理解することが大切です。「篆刻・刻字等」は、書道Ⅰでは扱うよう配慮するものとされており、書道Ⅱにおいては、篆刻は必ず扱い、刻字等を加えることもできるとされています。

高等学校 情報

重点1 教育内容の改善・充実

- 情報セキュリティに関する知識技術を習得することにとどまらず、情報の安全を担う能力と態度を育成する学習を充実させている。
- 情報コンテンツを利用した様々なサービスや関連する社会制度についての知識や技術の習得を図っている。
- システムの設計・管理と情報コンテンツの制作・発信に関する実践力の一体的な習得を図っている。
- 情報メディアと情報デザインに関する知識と技術の一体的な習得を図っている。
- 問題解決やプログラミングに関する学習の充実を図っている。
- 統計的手法の活用やデータの分析、活用、表現に関する学習の充実を図っている。
- ネットワークの設計、構築、運用管理、セキュリティに関する学習の充実を図っている。
- コンピュータグラフィックや情報コンテンツの制作に関する学習の充実を図っている。

【ポイント】

専門教科情報科の「情報に関する科学的な見方・考え方」は「情報産業に関する事象を、情報技術を用いた問題解決の視点で捉え、情報の科学的理解に基づいた情報技術の適切かつ効果的な活用と関連付けること」となっており、共通教科情報科のそれをより専門的にしたものとなっています。

重点2 各科目の指導方法の再確認

- 個別の生徒の状況に合わせた指導方法や指導体制の改善がされている。
- 学習内容に応じて実習などの実践的・体験的な学習活動ができるだけ取り入れるなど、情報手段の操作体験を十分に取り入れ、生徒にとって身近な生活場面と関連付けて指導している。
- 授業で扱う具体例などは、情報技術の進展に対応して適宜見直しを図っている。
- 情報分野は変化が激しく、また、悪用されてはいけないので、情報モラルについては特に大切に指導している。
- 新たなシステムやコンテンツなどを地域や産業界等と協働して創造するなどの実践的・体験的な学習指導を行っている。
- 小学校・中学校のプログラミング教育を踏まえてプログラミング的思考（構造的に考える力）を身に付けさせている。
- 情報産業に関する課題の発見や解決の過程において、協働して分析、考察、討議するなど言語活動の充実を図っている。
- 個人情報や知的財産の保護と活用について扱うとともに、情報モラルや職業人に求められる倫理観の育成を図っている。

【ポイント】

学習指導要領解説の総則及び情報科の目標の趣旨を再確認して、各科目の指導方法の改善することが重要です。また、情報教育の充実には、地域や産業界、特に大学との連携・交流が重要です。

高等学校 福祉

重点1 指導と評価の一体化を！

- 学習指導要領に示された目標及び内容、地域や学校及び生徒の実態等を踏まえ、生徒に身に付けさせたい力を明確にして指導と評価の計画を立てている。
- 「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に基づいた観点別学習状況の評価の考え方について理解を深め、評価規準を適切に設定している。
- 学習過程や成果を多面的に評価し、生徒の学習改善、教師の指導改善に生かすよう努めている。

【ポイント】

まずは、国立教育政策研究所発行の『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料〕を見て、理解を深めましょう。

重点2 各科目で育成を目指す資質・能力を明確にして、指導計画を作成する！

- 知識や技術を断片的に学習させるのではなく、実践的・体験的な学習を通して、活用できる知識と技術が総合的に身に付くよう指導計画を工夫している。
- 身に付けた知識及び技術などを活用して、福祉に関する課題を協働して分析、考察、討論を行い解決するなどの学習活動を通して、言語活動の充実を図っている。
- 資格取得やコンテストへの挑戦などを通じて自ら学ぶ意欲を高める学習活動を取り入れている。

【ポイント】

福祉科で育成をめざす資質・能力は、福祉の見方・考え方を働かせ、実践的体験的な学習活動を行うこと等を通して育成されます。多様な学習活動を効果的に取り入れましょう。

重点3 実験・実習等の学習、地域や産業界等の連携・交流、ICT活用を意図的・計画的に行う！

- 知識・技術の確実な習得や学習への動機付け・学習意欲の向上、実践的な技術の習得・勤労観や職業観の育成のために実験・実習等の学習や職業人等を活用している。
- 地域の福祉力を高める学習活動や、学習成果として専門性を生かしたボランティア活動等、学校の教育力を地域に還元している。
- ICTを積極的に活用し、福祉用具や福祉機器に関する学習を充実させ、学習効果を高めるよう工夫している。
- 実験・実習を行うに当たっては、安全管理に配慮し、学習環境を整備するとともに、事故防止の指導を徹底している。
- 校外実習等においては、事前指導の徹底、事故発生時や災害時の危機管理体制等への対策、プライバシーの取扱いへの配慮に十分留意して指導している。

【ポイント】

福祉科教育のより一層の改善・充実を図っていく上で、地域や福祉施設、産業界とのパートナーシップを確立することが重要です。

高等学校 専門家庭

重点1 各科目で育成する資質・能力を明確にし、指導と評価の一体化を図った授業を行う

- 学習指導要領に示された目標及び内容、地域や学校及び生徒の実態等を踏まえ、生徒に身に付けさせたい力を明確にしている。
- 生活の質の向上と社会の発展を担う職業人の育成を目指し、題材など内容や時間のまとまりを適切に構成し、学習計画を作成している。
- 目標及び内容に則した評価規準を踏まえ、評価場面や評価方法を適切に設定している。
- 学習過程や成果を多面的に評価し、生徒の学習改善、教師の指導改善に生かすよう努めている。

【ポイント】

学習評価の進め方については、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」（国立教育政策研究所）を読んで、理解を深めましょう。「主体的に学習に取り組む態度」について、家庭科では「粘り強さ」、「自己調整」に加え、「実践しようとする態度」も評価します。

重点2 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う

- 生活産業に関わる実習や就業体験活動、資格取得やコンテストへの挑戦など、自ら学ぶ意欲を高める学習活動を取り入れている。
- 自ら課題を発見し、解決の方策を探り、計画を立てて実践するという問題解決的な学習を取り入れている。また、課題の解決に当たっては、職業人に求められる倫理観を踏まえ、合理的（関連する法規に基づき）かつ創造的に解決できるよう取り組んでいる。
- 問題解決的な一連の学習過程の中で、家庭の生活に関わる産業の見方・考え方を働かせることができる学習場面を設定している。
- 自分の考えや情報を的確に伝えたり、まとめたりする活動、与えられたテーマに対して互いの考えを伝え合い、イメージをまとめ適切に表現する活動など、言語活動の充実を図る学習活動を指導計画に位置付けている。
- 最新の知識や技術を身に付けたり、望ましい勤労観や職業観を育成するために、地域や産業界との連携・交流を通じた実践的な学習活動を取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫をしている。
- ICTを積極的に活用し、学習の効果を高めている。
- ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を積極的に活用している。

【ポイント】

知識及び技術を習得して活用できるようにするために、学習活動を工夫することが大切です。実践的・体験的な学習活動を充実させましょう。なお、実験・実習を行うに当たっては、施設・設備の安全管理や衛生管理、事故防止の指導を徹底しましょう。